

営業の概況（平成28年度中間連結会計期間）【連結】

当中間連結会計期間（平成28年4月1日～平成28年9月30日）における我が国の経済は、世界経済の減速や海外情勢の影響等により円高が進行し、輸出や設備投資の低迷が長引いたほか、個人消費の回復も力強さに欠けるなど、景気回復に向けては未だ道半ばの状況にあると考えられます。

地元においては、平成28年4月に三菱自動車工業㈱の燃費データ不正事実が発覚し、軽自動車4車種の生産・販売が一時停止しました。同社は岡山県倉敷市に主力工場があり、当地においても同社のサプライヤーであるお取引先が数多く存在しており、地元経済への影響が懸念されております。当行としては地元金融機関としての真価が問われる局面と認識しており、資金面を含めた課題解決に向けて積極的かつスピーディーな対応に引き続き努めてまいります。

このような状況のもと、当行では平成26年4月に立ち上げた中期経営計画『ちゅうぎんHeart 2014』の諸施策の実施に取り組みました。

当中間連結会計期間の経営成績は、経常収益はリース子会社での売上増加などを主因として前年同期比8億94百万円（1.3%）増収の666億47百万円となりました。経常利益については、上記増益要因がありましたが、有価証券売却損の増加や経費の増加により前年同期比57億89百万円（23.8%）減益の184億73百万円となりました。また、親会社株主に帰属する中間純利益は、前年同期比35億4百万円（21.7%）減益の125億90百万円となりました。

財政状態に関しましては、次のとおりとなりました。

貸出金は、事業性資金につきましては、積極的な営業を展開した結果、平成28年3月末比1,478億円増加し、9月末残高は2兆7,053億円となりました。また、個人ローンにつきましても、商品の充実と利便性の向上により平成28年3月末比253億円増加し、9月末残高は9,942億円となりました。以上を主因に貸出金全体としては、平成28年3月末比1,777億円増加し、9月末残高は4兆2,109億円となりました。

有価証券運用につきましては、従来より資金利益と金利動向等リスクとのバランスに配慮しながら運用を行っております。当中間連結会計期間は、本年2月に導入されたマイナス金利政策により長期金利もマイナス圏で推移するなど非常に厳しい運用環境であったことに加え、貸出金残高が大幅に増加したこともあり、有価証券残高は平成28年3月末比719億円減少し、3兆342億円となりました。

預り資産（預金・譲渡性預金・公共債・投資信託）につきましては、預金は平成28年3月末比569億円減少し、9月末残高は5兆9,469億円、譲渡性預金は平成28年3月末比1,173億円増加し2,935億円、投資信託は円高による外貨建投資信託の時価下落等により平成28年3月末比170億円減少の1,512億円、公共債は平成28年3月末比12億円減少の2,872億円となり、預り資産全体では、平成28年3月末比422億円増加の6兆6,790億円となりました。

主要な経営指標の推移【連結】

(単位：百万円)

項目	期別	平成26年度 中間連結会計期間	平成27年度 中間連結会計期間	平成28年度 中間連結会計期間	平成26年度	平成27年度
経常収益		63,124	65,753	66,647	124,221	129,180
うち信託報酬		—	—	0	1	1
経常利益		21,306	24,262	18,473	39,106	43,440
親会社株主に帰属する中間純利益		13,594	16,094	12,590	—	—
親会社株主に帰属する当期純利益		—	—	—	24,702	27,252
中間包括利益		29,250	△9,398	8,437	—	—
包括利益		—	—	—	73,739	12,650
純資産額		487,336	509,218	530,630	522,396	526,014
総資産額		7,330,270	7,421,361	8,277,966	7,620,740	7,800,036
総自己資本比率（国際統一基準）		14.98%	15.35%	14.24%	15.27%	14.94%
うち普通株式等 Tier1比率		13.41%	14.24%	13.48%	13.82%	14.11%